現地を訪問して想うこと

昭和33年卒業　理工学部　荒川武

私は自転車で日本一周の途中、福島県いわき市で一方ならぬお世話になった事がありました。東日本大震災を知ったとき、直ちにボランティアに行く事を思いたちました。しかし、自分の宿舎、食事を確保する事が出来ず、取り止めざるを得ませんでした。その年の6月にやっと日帰りでお見舞いに行く事ができました。

今回のツアーで復興の進んでないのに驚きました。特に福島県は原発の被害の為、現地に入れず死の街の様では無いでしょうか？母親と子供たちはふるさとを捨て、慣れない土地や学校へ疎開し、父親は家屋と仕事のため、福島県に残るパターンが多い様です。

以前お世話になった方に、中央公論新社の「記者は何をみたか」（東日本大震災）と言う本を頂き、読ませて頂きました。私たちはこの事実を何時までも忘れる姿無く、後の人々に伝えていかねばならないと感じています。

先日、フィリピンでも台風30号により多くの犠牲者を出しました。地球上の人々は皆家族です。小さな支援でも多数で協力すれば、大きな力となります。協力して上げて下さい。

特に原発被害は何時までも解決の出来ない多くの問題を残します。皆が電力の無駄使いを無くし原発を一機ずつでも早急に無くし原爆被害国日本は原発の無い国にしなければならないと痛感致します。